



情報工学研究院
人間科学系
教授

佐藤 直樹 先生

「世間」の正体をさぐる

～ 新しい学問としての世間学の展開 ～

3月11日に東日本大震災がおきたときに、外国人記者が大挙して東北の被災地に入り、そのだれもが驚いたことがあった。それは、こうした災害がおきたときに外国では珍しくない略奪や暴動がおきることもなく、被災した人々がきわめて秩序だって行動し、とくに感情をあらわにすることなく、忍耐強く避難所で生活していたことだ。

これが世界中のメディアから称賛された。少なくとも外国では、法や警察の力がゆき届かなくなる無秩序状態になれば、略奪や暴動がおきるのが普通である。ところが日本では、先進工業国のなかでもダントツに犯罪率が低く、現在でもきわめて治安がよい。意外に思われるかもしれないが、歴史的にみても1950年代以降、例えば殺人の犯罪件数は一貫して減少しているのである。

このことは、日本には外国にない「世間」が存在することを考えないと説明がつかない。日本人は法のルール以前に、「世間」の細かなルールに縛られており、それが日本の治安のよさを支えてきた。つまり「世間」が、日本人の生活世界の隅々まで徹底的に縛っているのだ。

ところが学問の世界では、少数の例外を除いて、この「世間」がまともに学問の対象としてとりあげられてこなかった。この西欧社会にはない、日本に独特の「世間」を解明の対象とするのが世間学である。日本は明治以降西欧の文物を輸入し近代化を進め、科学技術や政治・法制度などの近代化には成功したが、「世間」という人的関係の近代化には失敗した。その結果、万葉の時代から続いている「世間」という人的関係が、日本人の生活世界の根底に残ることになった。

この日本の「世間」の本質を解明するために、私は歴史学者の阿部謹也さんたちと、1999年に「日本世間学会」を立ち上げ、本格的な研究を開始した。阿部さんは2006年に亡くなったが、'02年に『世間学への招待』を出版、'09年に学会誌『世間の学』を刊行するなど、世間学会の活動は持続的に展開され、世間学はさまざまな成果を生み出しつつある。

(日本世間学会 <http://www.sekengaku.org/>)